

## さくら市議会広報委員会視察研修報告書

議会広報委員会では、令和5年7月3日（月）から4日（火）の2日間の日程で、岩手県金ケ崎町議会、盛岡市議会を訪問し、議会だよりの編集等について調査・研究をして参りました。参加者は、高瀬一徳委員長、大河原千晶副委員長、加藤誠一委員、落合千枝子委員、笹沼昭司委員、永井孝叔委員、若見孝信委員、石岡祐二委員、小堀勇人委員、事務局職員1名です。

### 岩手県金ケ崎町

金ケ崎町は、岩手県内陸南部に位置し、奥羽山脈の秀峰駒ヶ岳の東方に拓け、西から山岳地帯、丘陵地、平坦地と緩傾斜を呈し、東端を北上川に接する水と緑の自然環境に恵まれた町です。産業は古くから米作地帯として農業が盛んですが、トヨタやその系列、シオノギの工場などもあり製造品出荷額は県内首位となっています。

金ケ崎町議会は、町村議会広報コンクールにおいて、平成25年度の最優秀賞をはじめ、令和3年度 優良賞、令和4年度 優良賞と上位入賞の常連町です。紙面には、表紙写真や町民主役のページなどに多くの町民が登場しています。

金ケ崎町の議会だよりは編集モットーを「ありのままに解りやすく」「議員の力で」「スピード発行」と掲げ、発行責任者である議長及び議会広報常任委員会に所属する議員計8名で行っています。

編集会議は、議員が主体で定例会初日から発行まで3回行い、事務局は数字などの確認を行っています。積極的に診断（クリニック）してもらうことも重要であるとのお話もあり、研修会に参加するなどそのような機会を設けるようにしているそうです。研修の中で「さくら市議会だよりの講評をいただき、「多くの色を使い、見やすくわかりやすい印象を受けた」「見出しを効果的に使用したほうが良い」といったご意見をいただきました。このような貴重な意見を紙面づくりに反映させていきます。



金ケ崎町の議会広報常任委員会は、委員の皆さんが一丸となってそれぞれの役割をこなしており、手作りで編集を行なっている事に感銘を受けました。また、町民の皆様と信頼関係を築き、多くの場で町民からの意見や感想を載せるなど、これまで続けてきた活動が誌面に表れているのだと感じ、さくら市議会広報委員会もこの様な委員会になるように努力していきたいと思いました。

## 岩手県盛岡市

盛岡市は、岩手県のほぼ中央にあり、北上盆地の北部に位置しています。江戸時代は盛岡藩の城下町で、岩手山を望み、市街地には北上川などの河川が流れています。産業構成は、第三次産業の比率が高く、農業ではキュウリやネギ、リンゴ、西洋梨のほか、鶏卵の産出額は県内有数となっています。

盛岡市議会は、中核市議会議長会における第15回議会報コンクールで最優秀賞を受賞されました。平成30年5月発行号から表紙のリニューアルや特集ページを盛り込むなど内容の見直しを続けてきたといい、コンクールでも特集ページにおける企画力を評価されています。

盛岡市の議会だよりの特徴は、タブロイド判で発行している点です。リニューアル時にタイトルロゴの変更を行い、イメージを刷新しました。また、点字や音声の議会だよりの作成をしています。基本方針を「議会活動の記録ではなく、市民が知りたい内容にポイントを絞った記事を掲載する」、基本コンセプトを「手にとってみたくなる」「プロセスがわかる」「ポイントを抑える」としています。

議会だよりの編集は事務局が行っており、議員は自身が一般質問した内容の中で議会だよりに掲載する質問項目を決めたり、特集記事の原稿を作成したりする形で関わっています。また、市内全世帯に配布するため、広報もりおかに折り込み、ポスティングを委託しているとのことでした。



盛岡市の議会だよりで感じたことは、「紙面が大きく見やすい」ことです。なるべく字数を減らし、要点に集中された記事になっている事で、市民が手に取るきっかけとなっていました。また、盛岡市の「全世帯」に広報誌や議会だよりを届ける努力をなさっているとの事でした。さくら市でも「さくら市議会だより」が市内にお住まいの皆様にお届けできるよう努力をしていきたいと思いました。

今回、視察研修で訪れた「金ヶ崎町議会広報常任委員会」並びに「盛岡市議会広報委員会」の取り組みは、私たちさくら市議会広報委員会委員のレベルアップに繋がる内容でした。この研修を今後の編集に活かし、市民から望まれる議会だよりを作っていきたいと思います。